

令和5年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
水産部門

デジタル技術を活用したスマートな操業への挑戦

○氏名又は名称 鐘崎あまはえ縄船団（代表 権田 義則）

○所在地 福岡県宗像市

○出品財 経営（漁業経営改善）

○受賞理由

・地域の概要

宗像市は、福岡県の北西部に位置しており、玄界灘や響灘に面した本地域は、中・小型まき網や刺網、はえ縄漁業が営まれている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

福岡県宗像漁業協同組合に所属している鐘崎あまはえ縄船団には、令和5年現在、74名が所属しており、主に底はえ縄漁業でキダイやアマダイ類、マダイなどを漁獲している。

・受賞者の特色

（1）大学等と連帯したスマート漁業推進チームの存在

九州大学や福岡県を含む関係機関によって「九州北部スマート漁業推進チーム」が組織されており、その一員として漁業者がデータの測定と提供に参画した。

（2）漁業者参加型のスマート漁業の導入

漁業者は、自ら観測機器を用いて潮流の方向・速さ、水深ごとの水温・塩分濃度の測定を行い、結果を解析機関に提供するとともに、その情報等を基に解析、配信された海況予測データを用いた操業を行った。

その結果、出港時点で適切な漁場選択が可能となり、漁場探索のための航海時間の減少が燃油消費コストの削減につながっただけでなく、潮流を詳細に予測できたことで、底はえ縄漁具の喪失も回避可能となり、燃油・資材コストの圧縮、操業時間の短縮という多面的な成果を得た。

・普及性と今後の発展方向

漁業は操業時間が不規則で長時間化しやすい傾向があり、後継者の確保難といった様々な問題に直面しているが、漁業者参加型のスマート漁業を導入することで、燃油・資材コストの圧縮、操業時間の短縮という多面的な成果を生み出した本出品財は、漁家の経営改善を目指す他地域への普及も期待される。

今後も引き続き漁業者がそれぞれの操業形態に応じて、観測の負担を軽減する方法を見い出し、費用対効果をより高めていくことで、普及性が高まると評価できる。